

大学・高専機能強化支援事業（支援 1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F112310102468	設置等組織名	工学部
大学名	麗澤大学	設置区分	私立	事業計画名	麗澤大学 学部の新設
学校種	大学	都道府県	千葉県		

1.フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間		事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
フェーズ1				○年度自己評価	リストから選択してください。
				○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ2 前編し				○年度自己評価	リストから選択してください。
認可申請 又は編出		令和5年3月 工学部工学科設置認可申請、令和5年9月 工学部工学科設置認可。			
フェーズ2 後編し				○年度自己評価	リストから選択してください。
	① 令和6年2月 工学部設置のため、工学部校舎新築 （この間、国研（産総研、農研機構、柏の葉アーバンデザインセンター）等との教育連携活動、多様な入学者の募集活動（高大連携を含む）、多機能自主学習フロア「Studio」の設立準備、エドテックシステム準備などを実施する。）	① 令和6年3月 工学部設置のため、工学部校舎新築 （この間、国研（産総研、農研機構、柏の葉アーバンデザインセンター）等との教育連携活動、多様な入学者の募集活動（高大連携を含む）、多機能自主学習フロア「Studio」の設立準備、エドテックシステム準備などを実施する。）	R5年度自己評価	【2】計画を十分には実施していない。 工期が1年とタイトであったこともあり、物価上昇による資材調達調整や猛暑による躯体工事の労務効率低下に伴い、当初予定より若干竣工が遅れたが、開講には間に合った。	
開設 又は定員増		令和6年4月 工学部工学科開設（入学定員100人、編入定員若干名、工学関係）			
フェーズ2 後編し				○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ3	① 令和6年6月 多様な入学者の確保方法の点検と見直し戦略の立案と実施支援（初回） ② 令和6年10月 エドテックの点検評価と強化方法の立案と実施支援（初回） ③ 令和7年6月 多様な入学者の確保や社会課題解決人材の継続的な育成方法の点検と見直し戦略の立案と実施支援（2回目） ④ 令和7年10月 エドテックの点検評価と強化方法の立案と実施支援（2回目） ⑤ 令和8年10月 産官学との共同研究・プロジェクト等の企画・実施事業の点検と見直し戦略の立案および実施支援（この間、年2回地域の企業や自治体等と、コースのマッチング会議などを定期的に開催し、地域貢献、外部資金獲得、人材育成方法など教育方法（エドテック等を含む）の一層の改善・充実化などを推進する。また高大連携活動等を定常的に行う。）		R6年度自己評価	リストから選択してください。	
				R7年度自己評価	リストから選択してください。
			R8年度自己評価	リストから選択してください。	
定員減又は学部等の廃止		定員減及び学部等の廃止は行わない。			

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	龍澤大学
-------------	-------	-----	------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和5年度の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>確認の対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☒ チェック	確認の対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
確認の対象に該当しない	☐ チェック					
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な資保証の枠組みを活用するなど出口における資保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑨	事業計画の策定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる、又は設置等を行った</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック			
計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック					
⑨	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑩	フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	龍澤大学
-------------	-------	-----	------

⑫	計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。		
	計画通りに進んでいる	■ チェック	
⑬	選定された大学は、公選要請に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文部科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。		
	計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	■ チェック	
⑭	文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。		
	認定を受けておらず申請する意向もない	■ チェック	

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

- 【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）**
- チェック a. 企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
 - チェック b. 関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
 - チェック c. 関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
「システムエンジニア特論A・B」「システムデザイン」「グローバルエンジニア」「社会ロボティクスⅠ・Ⅱ」といった科目では、専任教員の人的ネットワークを生かし社外の技術者・ビジネスマネジャー等を講師とする特別講義を組み合わせる。また、「課題解決型プロジェクト研究」は、大東建託賃貸未来研究所が実施している「いい部屋ネット街の住みこころランキング」の5年分・全国80万人以上の個票データを使って自治体と連携した分析と仮説検証を行うPBL科目となっている。さらに、3年次の「プロジェクト研究A・B」および「4年次の卒業研究A・B」では、専任教員が持つ地域活動や共同研究等で関係している自治体（柏市・流山市・守谷市・水戸市・埴町等）や官公庁・研究機関（茨城県庁、千葉県庁、産総研、農研機構等）、企業（日立システムズ、富士通、IBM、ソフトバンク、LINE、リクルート、ゼンリン等）との関係を生かし、課題抽出、解決策の仮説設定等も連携して行う計画となっている。	設置認可に向けた作業の中で講義名称には若干の変更があったものの、当初計画通りに全ての講義が認可され、実施されることとなった。具体的には、「龍澤流エンジニアA・B」「社会システムのデザインと技術」「グローバルエンジニア」「社会ロボティクスⅠ・Ⅱ」といった科目では、専任教員の人的ネットワークを生かし社外の技術者・ビジネスマネジャー等を講師とする特別講義を組み込んでいる。また、「課題解決型プロジェクト研究」は、当初計画通りに大東建託賃貸未来研究所が実施している「いい部屋ネット街の住みこころランキング」の5年分・全国80万人以上の個票データを使って自治体と連携した分析と仮説検証を行うPBL科目として実現した。さらに、3年次の「プロジェクト研究A・B」および「4年次の卒業研究A・B」では、専任教員が持つ地域活動や共同研究等で関係している自治体（柏市・流山市・白井市・守谷市・水戸市・埴町等）や官公庁・研究機関（茨城県庁、千葉県庁、産総研、農研機構等）、企業（日立システムズ、富士通、IBM、ソフトバンク、LINE、リクルート、ゼンリン等）との関係を生かし、課題抽出、解決策の仮説設定等も連携して行う講義として決定されている。	特に課題はなく、計画通りに実施できている。

- 【B：多様な入学者の確保に向けた取組】**
- チェック a. 入学者選抜における科目の見直し
 - チェック b. 女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
 - チェック c. 地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
 - チェック d. 社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキングへの対応）
 - チェック e. 留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
通常の指定校推薦入学試験以外に、女子校向けの指定校推薦枠を設ける予定であり、女子校向けの出張授業、学校説明会を積極的に工学部の告知を行い、年間を通じたセミナー・ワークショップ等を対面、オンライン、デマンド等で実施することで、入学後の具体的な学修イメージを醸成していく取り組みを実施する予定である。さらに、系列校である龍澤中学校（千葉県柏市）、龍澤瑞浪中学校（岐阜県瑞浪市）や柏市等の龍澤大学所在地周辺での中学生に向けた理系学部に関するワークショップの実施等を検討している。加えて、保護者向けのセミナー、動画配信等を通じた大学進学、理系学部に関する理解促進の取り組みも検討する予定である。	通常の指定校推薦入学試験以外に、女子校向けの指定校推薦枠を設け、女子校向けの出張授業、学校説明会を実施した。出張講義等を実施した高校は、一般の高校と合わせて90校に及ぶ。合わせて、高校3年生だけではなく、高校1年生も対象として、積極的に工学部の告知を行った。さらに年間を通じたセミナー・ワークショップ等を対面、オンライン、デマンド等で実施することで、入学後の具体的な学修イメージを醸成していく取り組みとして大きな効果があった。さらに、SDGsフォーラムを実施し、龍澤中学からの生徒の参加も得て、大学全体の活動紹介を行った。また保護者向けのセミナー、動画配信等を通じた大学進学、理系学部に関する理解促進の取り組みも継続的に実施した。結果として、定員を超える入学者を迎えることができた。	地域の初等中等教育段階の学校との連携については、SDGsフォーラムに龍澤中学からの参加を得た。系列校である龍澤中学校（千葉県柏市）、龍澤瑞浪中学校（岐阜県瑞浪市）と別途、検討を進めたが、具体的な出張講義やワークショップなどはまだ計画段階であり、実施には至っていない。工学部の紹介や受験指導に関する要望が高校側から強く寄せられたため、10名の工学系教員で、90校にも及ぶ高校向け出張講義等を実施したが、中学生向けの具体的な出張講義・ワークショップまで実施することが困難であった。そのため、令和6年度でも検討を継続し、実施する計画である。

大学名	麗澤大学
-----	------

1.本事業対象となる学部等の状況

＜合計＞

[illegible]

大学名	麗澤大学
-----	------

2.理・工・農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況

[illegible]

大学名	麗澤大学
-----	------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	600	700																	
		入学者数	人	659	818																	
	その他の学期	入学定員	人	0	0																	
		入学者数	人	0	0																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	600	700																	
		入学者数(B)	人	659	818																	
		入学定員充足率 (B/A)	倍	1.10	1.17																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	2400	2500																	
		編入学定員	人	0	0																	
		在籍者数(D)	人	2485	2621																	
		編入学者数	人	12	11																	
		収容定員充足率 (D/C)	倍	1.04	1.05																	

4.外部資金の状況（全学）

年度			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
改組状況			選定－5年	選定－4年	選定－3年	選定－2年	選定－1年	選定	開設			完成年度									
項目	単位																				
外部資金獲得額	千円		228,813	308,430	265,965	148,948	204,889	231,753													

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間における各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均）(E)	千円	233,222
本事業による助成金の額(F)	千円	755,815
フェーズ3の助成期間終了時までに達成する額(E+F×2.5%)	千円	252,118

特記事項